資料４（議事１）

# 文化芸術拠点活用方法の検討結果について

# 1 検討作業の概要

## (1)検討作業の目的

川口駅西口に建設予定の美術館と、隣接する川口総合文化センター・リリアなどの周辺施設が、各々の持つ魅力を最大限に生かした連携を図り、川口駅西口周辺が文化芸術の拠点となるよう、その活用方法について検討を行った。

## (2)検討作業の方法

検討作業委員により、幅広い視点から活用方法についての自由な議論を行い、そこで出た意見を事務局にて整理・集約して、活用方法に求められる考え方や方向性としてまとめた。

■活用方法検討視点の拡がり（事務局提示資料）

## (3)検討作業の流れ

検討作業は川口総合文化センター・リリア会議室において計４回を実施した。

| 回 | 実施日時 | 内容 |
|---|---|---|
| 第１回 | 令和５年１０月３日<br>１５：００～１７：００ | （報告事項）<br>● 活用方法検討作業の趣旨について<br>● 総合文化センター・リリア大規模改修および美術館建設の現状について<br>（検討事項）<br>● 文化芸術拠点活用方法の検討について |
| 第２回 | 令和５年１０月１８日<br>１０：００～１２：００ | （検討事項）<br>● 文化芸術拠点活用方法の検討について |
| 第３回 | 令和５年１１月８日<br>１４：００～１６：００ | （検討事項）<br>● 文化芸術拠点活用方法の検討について |
| 第４回 | 令和６年２月１５日<br>１０：００～１１：００ | （検討事項）<br>● 文化芸術拠点活用法の検討について |

## (4)検討作業委員

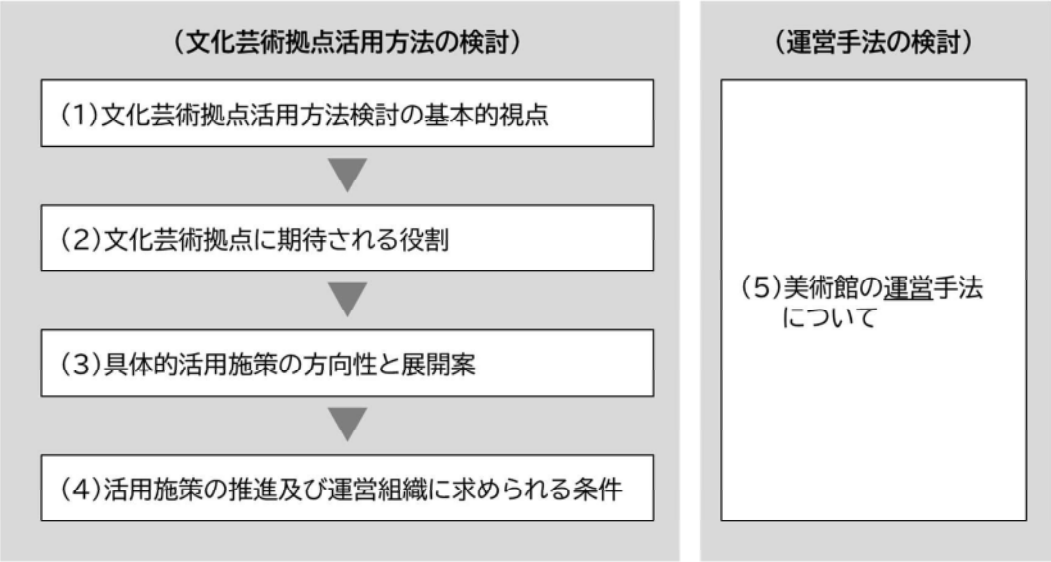
| | 氏名 | 条例４条該当名 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 1 | 原田敬美 ★ | 知識経験者 | 一級建築士・会社代表 |
| 2 | 寺久保文宣 | 知識経験者 | 画家 |
| 3 | 山下隆史 | 知識経験者 | 元美術館建設基本構想・基本計画審議会委員 |
| 4 | 宇田川格 | 美術関係者 | 川口市美術家協会事務局長 |
| 5 | 大西まみ | 音楽関係者 | 音楽家 |
| 6 | 川田幸代 | 社会教育関係者 | 川口市文化団体連合会副会長 |
| 7 | 齋藤譲一 | 音楽関係者 | （一社）日本劇場技術者連盟理事長 |

★ 検討作業会長

## 2 検討結果

検討作業委員による議論ででたさまざまな意見を分類し、文化芸術拠点活用方法の基本的考え方として整理・体系化するとともに、美術館の運営手法についての検討を行った。

（検討結果分類項目）



## (1)文化芸術拠点活用方法検討の基本的視点

活用方法を検討するにあたって、文化芸術拠点整備が持つ基本的な特性に関して以下の３つを基本認識とした。

### 1 立地のメリットを最大限に活用

多くの市民が利用する川口駅、親子連れの利用が多い川口西公園、知名度の高い川口総合文化センター「リリア」に隣接するという立地のメリットを最大限に活かした活用方法を検討する。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- 都心のエリアの中で、駅前にこれほどの公園があるのは原宿を除き川口だけ。駅前にこれだけ緑があるのは他の地域にはない。素晴らしい立地。
- 近県の者でもリリアのことは知っている。

### 2「川口らしさ」の発信と実感

「川口らしい」イメージを発信し、市民や子どもたちが「川口らしさ」を実感できるとともに、外国人にとっては「日本文化」の魅力が実感できる拠点となることが求められる。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- 川口らしさを感じられる雰囲気であってほしい。
- 地域の人にとっては川口らしさを実感できる美術館、外国の方には日本を理解できる美術館としてなれば良いのではないか。

### 3 施設間の効果的連携

美術館とリリア（音楽ホール）で設備・備品の相互利用を図ることにより、美術館での音楽イベント開催など、美術と音楽が融合した川口独自の文化芸術発信の可能性を追求する。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- リリアと西公園があると人は集まる。リリアに来た人も気軽に美術館にきてくつろげる、楽しめる空間にできるとよい。バイオリンなどの演出もできるとよい。
- 展示物と音楽を絡めてふさわしい演奏を行うのはよい。

## (2)文化芸術拠点に期待される役割

文化芸術拠点に期待される役割として、川口駅や川口西公園を利用するさまざまな市民や親子連れが、気軽に川口市の文化芸術に触れることのできる場を提供するとともに、文化や言語、価値観を超えて人々をつなぐことができる「文化芸術ならではの力」を活かして、川口の未来に貢献することが意見として示された。

川口の未来に貢献する方向性（役割）として以下の３点があげられた。特にインクルーシブなまちづくりなど、多様性の面において日本のモデルとなり得る川口市の特性を踏まえた先進的な取り組みの場として美術館を活用していくことが提案された。

**（期待される役割の基本的方向性）**

「美術と音楽が持つ力」を川口の未来に活かす、
時代に先駆けた文化芸術拠点の実現

### 役割1 多様な市民を包み込むインクルーシブなまちづくりに貢献

全国で最も外国人比率の高い川口市の特性に対応し、言語や文化、価値観を超えて多様な背景を持つ人々がともに楽しみ、一つになれる場を提供し、インクルーシブ※なまちづくりに貢献するとともに、川口市の多様性を活かした川口市ならではの文化芸術の発信を行う。

※　インクルーシブ：国籍や性別、障がいの有無などに関わらずあらゆる人を包摂する（包み込む）こと、誰も排除されないこと。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- 外国にルーツを持つ子に話を聞いてみると、「アートは自分のルーツが日本になくても楽しんで製作できるため、心の安定に良かった」という話があった。そういった子どもを対象に居場所づくりとしても美術館を活用できると良い。
- 様々な理由で川口に移り住んでくる人も多い。一つのことで皆が一緒に楽しめることにアートは有効である。そういった意味でも美術館が拠点になれば良い。
- 価値観を超えて一緒になれる、一体感を持つという意味で美術館が役に立てれば良い。

### 役割2 次の時代に活躍する人材を育成

美術館を次の時代に活躍する人材育の場として活用する。子どもたち（小学生）に対する文化芸術教育の推進、中高生が自分の夢にチャレンジできる場としての美術館の活用、これからの時代に求められる日本の伝統文化の素養を持つ国際人材育成への貢献、文化芸術を支えるキュレーターの育成など、さまざまな人材育成の方向性が提案された。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- キーポイントは、次世代をどう育てるか、どう育っていくか。次世代の人たちがここに多くあつまるような創り方をしていきたい。
- 自分の美的判断を子どものうちから磨いていけるような、アートを観ることのできる人、聞くことができる人が増えるとよい。
- 美術館は若い世代の人たちが挑戦できる場であってほしい。１０代の子どもたちが自分のやりたいことを諦めることなく、その発表先や評価の場所として美術館を活用できるとよい。
- 海外では必ず、相手から自国の美術等について聞かれる。若い世代の中に、日本のコアカルチャーが理解できている人を醸成していく機関となれば良い。
- 若手のキュレーターに対して自分だったらどう企画展をするのか？などの企画を行い次世代育成もできるとよい。

## 役割3 川口の地域課題への対応

文化芸術の力を活かした地域課題解決の場として美術館を活用し、日本の自治体のモデルとなる取組を他に先駆けて推進する。子育て支援、すべての人がともに楽しめる場づくりや外国人の子どもたちの居場所づくり、商店街への経済効果が貢献すべき課題として挙げられ、美術館が実現すべき目標として「DE＆I（ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン）」が提案された。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- 今後は文化施設を作ることによって街づくりになり、暮らしに活かされ、国づくりにつながることが眼目だと思う。特に川口は人種なども多種多様な方がいるため、日本の未来のモデルになる都市になり得る自覚をもち、他の自治体がやっていないことに踏み込み、成功させていくことが使命だと思う。
- ３０年後、５０年後の世代の人たちが「美術館があってよかった」と思えることが重要だと思う。そのために前例のない事項をどのように考えていくか検討する必要がある。
- 母親がストレス発散のため美術館に行き、鑑賞を行う。美術館と子育て対策を絡めて実施するということは良い発想。子育ても可能な美術館という考えは必要だと思う。
- 近年社会の一つの目標として「DE＆I（ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン）」がよく言われている。単なる美術館ではなく、DE&I を実現するための手段としての施設であると結論づけられると良いと感じている。

※D=ダイバーシティ：多様性、E=エクイティ：公平性、I=インクルージョン：包摂性

【文化芸術ならではの力を活かした参考事例】（ ）は事業主体

### 子育て世代を迎えるベビーカーでの鑑賞

**東京都美術館（東京都）**

- 子連れの家族向けに MOT ロゴ入りベビーカーを貸出。展示室にベビーカーで入場できるため家族でゆったりと展示を鑑賞できる。

### 小学生だけの対話型鑑賞

**東京都美術館（東京都）**

- ２０１６年に NPO 法人キッズドアととびらプロジェクトが連携し「ミュージアム・トリップ」を実施。対話型鑑賞とすることで、小学生は自分なりの見方・感じ方で作品と美術館を楽しみ、それと同時に他者の考え方を受け入れ、尊重することが学べる。

### 小中学生と現代美術作家との対話

**うしく現代美術展（うしく現代美術展実行委員会・牛久市）**

- 牛久市を中心とした茨城県内在住作家を対象とした現代美術展の関連企画として、子どもたちが作家に感想を言ったり、質問できたりする「小中学校鑑賞会」を実施。見るだけではない美術体験の場を提供。また、ナイトミュージアムとして、うしく音楽家協会とのコラボレーションによるコンサートも実施している。

### いつも作りかけの空間＝「子どもアトリエ(つくりかけラボ)」

**千葉市美術館（千葉市）**

- 「五感で楽しむ」「素材に触れる」「コミュニケーションがはじまる」空間。アーティストが滞在し、ラボの空間に合わせ訪れた人と関わりながらインスタレーションを制作。滞在制作が終わった後も、観客がラボに参加することで空間が常に変化し続ける “いつもつくりかけ” のラボを展開。

### 本当の意味で、誰もが居心地の良い空間を

**Marunouchi Street Park 2021　丸の内ストリートパーク**

**（Marunouchi Street Park 2021 実行委員会）**

- 都心の広場・公園的空間の在り方を検証する社会実験の場 “Marunouchi Street Park” ２０２１Winter では、目の不自由な方向けのイルミネーションツアーを実施。エスコートするスタッフとの会話を通じ、目の不自由な方にイルミネーションに彩られた丸の内を想像してもらうことをねらいとした。またストリートピアノでの音楽演奏やハンモックなど冬らしいコンテンツがちりばめられ、誰もが季節を感じ、つながり過ごせるような空間づくりがなされた。

## 市民に愛着を持ってもらうために

**１０００RE SCENES　センリシーンズ　（豊中市）**

**「色をみつけて色をつくる」**

- 千里中央公園のアートイベント。地域住民が気軽にアートに触れる機会と、アーティストが活躍するプラットフォームを千里中央公園につくりたい、という想いから生まれた。
- 木々や空、水、光など公園にあふれる様々な風景に色を見いだし、それを神の上に絵の具で表現する。色を探す中で「公園にはこんなにも多様な色があったんだ...」と、普段は何気なく見ている景色をじっくり見て、公園の魅力を再発見する機会となる。

**「重なり、溢れる“〇”」**

- アートワークショップ「色をみつけて色をつくる」で作った色を用いてコミュニティスペースの壁や備品をペイント。ワークショップ参加者は“〇を描く”という共通のルールのもと、好きな色で自分なりの〇を描く。
- ワークショップは全５回開催され、回を重ねるごとに〇が重なり、壁面には〇が溢れる。〇を描くという行為を通じて参加者に施設への愛着を持ち続けてもらうことを狙いとしている。

## 市民と美術館の関係性を再考・再興

**「あなたをうつす５つの鏡」（大阪新美術館建設準備室×ｅｎｏｃｏ）**

- 大阪府江之子島文化芸術創造センター（ｅｎｏｃｏ）で実施された市民キュレーターワークショップ。公募によって選ばれた市民キュレーター５名が約２ヶ月半をかけて、展示内容の決定、作品の取り付け、撤去作業までを一貫して行った。
- 展示物にはｅｎｏｃｏに所蔵されている大阪府のモダンアート作品が用いられている。市民が学芸員の仕事を学ぶ場としてではなく、表現する側として参加する事例は全国的に見ても珍しい。
- ｅｎｏｃｏでは過去４回市民キュレーターワークショップが開催されており、本ワークショップは５回目の開催となった。特に第５回は展覧会がメインとなり、市民キュレーターからはアートとの向き合い方を考える良い機会になったなどの感想もあがっている。本来は見る側の市民と見せる側の美術館の関係性を考える場が実現された一例。

【参考：文化芸術による都市の産業・経済への波及効果】

## ニューヨーク市の文化芸術と経済政策

- ２００５年の報告書“arts as an industry”によると、ニューヨーク市の文化芸術による経済効果は２１２億ドル（３兆１,８００億円※）。文化芸術分野で発生した雇用は１６０,３００人、支払われた賃金の総額は８２億ドル（１兆２,３００億円※）、文化芸術活動によるニューヨーク市の税収は９億４００万ドル（１,３５６億円※）となった。単純な比較はできないが、文化芸術が都市の経済に与える影響は大きい。　※１ドル１５０円換算

情報提供：原田敬美 川口市文化芸術審議会会長

## （3）具体的活用施策の方向性と展開案

文化芸術拠点の役割を踏まえつつ、その具体的な活用施策について、「活用施策の内容」「施設やプログラムの運営」「施設や環境」の３つの視点からさまざまな提案がなされた。

### 活用の視点1. 活用施策（プログラムや展示）の内容

美術館では、川口ゆかりの作家の紹介を基本としつつ、美術と音楽を一体に捉えた、ここならではの取組を推進していくことの可能性が提案された。その方向性と展開案については以下のようになっている。

#### 美術と音楽を一体に捉えた文化芸術の発信

三味線と浮世絵など、アートと音楽を一体で捉え、日本の文化として発信する取組や、小学生のアート感想文など、アートと言語の枠を超えて共有・発信する。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- 三味線や浮世絵など、アートと音楽を絡めることは良いと思う。
- 三味線やお琴を知らない子どももいる。展示の中で日本文化を扱い、子どもたちが来館した際に日本舞踊がみられるようにすることも考えられる。海外で三味線の演奏を行うと満員になる。海外の人が期待しているのは日本の伝統的な音楽。美術館でも１年に１回でも日本の伝統的な音楽等を展示してもらえると良いと思う。
- 小学生の読書感想文の「アート感想文」のような、鑑賞したものを言語化して他の人と共有できるようなコンクールがあるとよい。

**【参考事例】　（ ）は事業主体**

**楽器とアートの融合／ＳＯＵＮＤ＆ＡＲＴ**

**３３３１ Arts Chiyoda（千代田区）**

- 見る音楽、聴く形として、既存の楽器では出せない「音」を奏で、見られない「形」を持つ彫刻やオブジェ、インスタレーション作品を展示。この展覧会では２０世紀以降に作られた楽器や自動演奏装置を用いて音楽づくりの基盤を変えていこうとする動きにスポットを当て、新しい楽器や独創的なサウンドを奏でる作品約４０点が一堂に会して展示。（３３３１ Arts Chiyoda は施設老朽化のため２０２３年閉館）

### 音楽と楽器をより身近に／レクチャーコンサート・体験型ワークショップ

**浜松市楽器博物館（浜松市）**

- 世界の楽器・音楽・文化をテーマとした講座や演奏技術の初歩を体験できるワークショップや一つの楽器や音楽をテーマに、国内外の演奏家や研究者を招き、演奏と講話をするレクチャーコンサートを実施。来場者が音楽に興味を持ち、そして深掘りすることができるコンテンツが充実している。

## 幅広い市民が興味を持ち、文化芸術への入り口となるコンテンツ

美術や文化芸術に関心が薄い層に訴えかけ、幅広い市民にとっての文化芸術への入り口を提供することを狙いとして、「チームラボ」やアニメの原画展など、知名度や人気のあるコンテンツを展開する。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- 普段アートに触れておらず、川口市セブンやアトリアを知らない人もいる。そのようなあまりアートに詳しくない、興味が薄い層人を連れてくる施策は大切だと思う。
- 「チームラボ」のプロジェクトなどを行うと子どもも喜ぶと思うのでたまに開催するとよい。
- アニメの原画展は思っている以上に人気がある。人気があるからといって特化してはいけないが、来てもらうきっかけとして年１回でも開催できると良いのではないか。

**【参考事例】　（ ）は事業主体**

### デジタル・マンガ・エンタメなどアートで現代を横断

**A Quarter−Century of Japan Media Arts Festival**

**文化庁メディア芸術祭25周年企画展（文化庁メディア芸術祭実行委員会）**

**２０２３.2.4－１４ 会場：寺田倉庫　東京都品川区東品川**

- 文化庁メディア芸術祭全２５回の受賞作のうち５０作品が並ぶ企画展。部門ごとの展示が常だった過去の受賞作品展に対し、本企画展は、デジタルアート、アート、エンターテイメント、アニメーション、マンガなど、多種多様なジャンルの作品が一堂に会して展示。分野横断的な展示構成が来場者に新たな視座を提供した。

## 子どもから親世代へと広がっていく仕掛けづくり

学校見学による子どもたちの来館をきっかけとして、その親世代へと入館者層を広げていく仕掛けをつくる。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- 金沢２１世紀美術館では学校見学の最後に子ども入館無料のチケットが付いているチラシを渡す。そうすると子どもがもう一度来たいといった時に、保護者とともに来る。

**【参考事例】　（ ）は事業主体**

### 市内小学生全員を招待&「もう１回券」で保護者と再来館

**金沢２１世紀美術館（金沢市）**

- 子どもたちとともに成長する美術館として、２００６年以降、金沢市内の小学４年生を学校ごとに招待する「ミュージアム・クルーズ」を実施。参加した小学生に家族とともにもう一度美術館に足を運んでもらうことを狙いとして「もう１回券」を配布している。

## エリア全体を「舞台」としたイベント等の展開

公園やリリアを含む川口駅西口エリア全体を「舞台」と捉え、音楽と美術が融合した、音楽ホールと美術館を核とした文化芸術拠点ならではのイベントを実施。エリアとしての発信力向上とにぎわいづくりに貢献する。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- 丸の内の場合、GW にラ・フォル・ジュルネを実施する時は、三菱一号館美術館で１７世紀の美術を紹介する。１７世紀の音楽家を扱うコンサートを行う。そういったものをイメージして川口でも実施してはどうか。

**【参考事例】　（ ）は事業主体**

### 近隣の公園商店街と一体化した展示活動

**十和田市現代美術館（十和田市）**

- 「まちにひらかれ、まちをひらく」美術館として、美術館のコレクションをまちなか展示やストリートファニチャーとして、館内だけではなく近隣の公園や商店街にも広く展開している。

### 「鳴く虫と郷町」

**市立伊丹ミュージアム（伊丹市）**

- 江戸時代の風習である「虫聴き」を現代風にアレンジして２００６年に始まった企画。“伊丹のまちで虫の音と秋を愛でる１０日間”として、伊丹駅周辺エリアで一体的にイベントを実施。メイン会場である市立伊丹ミュージアムでは、期間中の数日、夜間開館が実施され、行灯でライトアップされたミュージアムで、鳴く虫の展示を楽しむことができる。

## 川口のまち、ひとと連携した川口独自のコンテンツ

商店街や川口の名物人材と連携して川口独自のコンテンツを発信し、川口の魅力発信やにぎわいづくりに貢献する。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- 大人向けの視点も検討したい。川口にはバーボンで有名な方がいらっしゃる。美術館の中でお酒は難しいかもしれないが、こういった方や商店街とイベントを実施できたらよい。

**【参考事例】　（ ）は事業主体**

### 市民共創で伝統文化を現代に再生／松本てまりモビール

**松本市立博物館（松本市）**

- 松本市民の手で守り継がれてきた「松本てまり」を、松本市立美術館を象徴するモニュメントとしてランスホールの天井から吊り下げて入館者を迎えている。市の伝統産業である松本民藝の木工職人やてまり職人、ワークショップ参加の市民が協働して「てまりモビール」を製作し、シンボリックなオブジェとなった。

### 地域の名産（和紙）をアートに変換

**徳島ＬＥＤアートフェスティバル２０１６**

**（徳島 LED アートフェスティバル実行委員会・徳島県・徳島市）**

- １３００年の歴史を持つ阿波和紙を用いたインスタレーション。ビルや家々を模した木枠に和紙が貼られ、ＬＥＤの明かりによって街並みとそこに住む人が表現される。ボリュームごとに貼り付ける和紙を使い分けることで光の洩れ方に差をつけるなど、阿波和紙の特性が十分に活かされている。

### 地域の風物（絹）に着想を得たインスタレーション／ファンファーレ 扇の舞

**鶴岡アートフォーラム（鶴岡市）**

- 酒井家庄内入部４００年記念の鶴岡シルク特別企画展「ファンファーレ 扇の舞」を開催。庄内の風物をモチーフに、「末広がり」な扇のデザインに祝賀の意味合いを込めて、青・藍色を基調にデザインされた直径約２ｍの扇形の多様なテキスタイル約１００枚をインスタレーション展示している。

## 美術館で郷土の神楽を体感

**高知県立美術館 能楽堂（高知県）**

- 毎年１月３日に高知県内各地域の神楽を美術館ホールの能楽堂にて上演。各地域の身近なところで伝承されている郷土芸能を県民が知る機会を提供している。高知県立美術館では、高知県ゆかりの作家や表現主義の作家の美術作品の展示とともに、美術館ホール・能楽堂を活用して舞台芸術や映画などの芸術文化を発信している。

## 活用の視点2. 施設やプログラムの運営

ベットタウンとしての川口の特性を反映するとともに、文化施設運営の固定概念にとらわれない運営を推進することの必要性が提案された。

### 川口を代表する文化芸術拠点にふさわしい運営サービス

ユニフォーム、案内サービス等を文化芸術拠点にふさわしいデザインやサービス品質とする。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- 美術館内の職員の制服やマナーなどが美術館にふさわしく整備されているとよい。
- 音声ガイドがあるとよい。歌舞伎もイヤフォンガイドがある。

**【参考事例】　（ ）は事業主体**

**現代日本を代表するデザイナーによるスタッフコスチューム**

**青森県立美術館（青森県）**

- 皆川明がデザイナーを務める「minä perhonen（ミナ ペルホネン）」の制服を採用。制服は館のシンボルカラーである水色と茶色の２色展開で、ブランドで長く作り続けられている「ちょうちょ」の刺繍があしらわれたテキスタイルで製作された。

### 最新の技術を活用した入館者対応

最新の情報通信技術（ICT）やロボット、AI などを活用した入館者サービスを提供する。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- AI を活用して自動運転の車椅子や音声解説機能などもよい。
- 子ども向けにロボットが解説しても良いのではないか。

### 市民が日常的に利用しやすく、寄りたくなる運営

ベッドタウンとしての川口市の地域特性に合わせた開館時間の設定や運営サービスの提供を行う。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- 川口は「いってきます、ただいま」の街。「ただいま」と帰ってきた時に、美術館に寄って

帰ろうと思う拠点であってほしい。

- １８時までだと短い。仕事帰りの人が寄ることができる時間設定が良い。

**【参考事例】　（ ）は事業主体**

### 夜間開館・飲食スペースの開館

**福岡市美術館（福岡市）**

- 夏季限定で美術館２階屋外広場（エスプラナード）を夜間開放。７月～１０月の金・土曜日は閉館時間を通常の午後５時３０分よりも延長して午後８時、付帯するカフェの営業時間も午後８時（通常午後７時）までとしている。レストランは年間を通じて午後８時３０分まで営業。

### 夜間におけるラウンジ解放とピアノボランティア

**熊本市現代美術館（熊本市）**

- 夜間開館して毎晩午後７時より３０分間、ボランティアスタッフ CAMKEES（キャンキース）によるピアノコンサートを実施している。

## 美術館の雰囲気や施設を付加価値とした施設活用プログラム開発

スポンサー企業に対する施設の優先貸出、アートの発想によるイノベーション等の支援など、美術館の施設やコンテンツのさらなる活用を図るプログラムを開発し、美術館の発信力と収益性を高める。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- 企業への紹介や、美術館へのスポンサー登録などで出資してもらって優先的に利用してもらうような貸し出しの仕組みを作るとよい。海外の有名ホールは企業への貸し出しなどが行われているが、日本ではあまり聞いたことがない。
- ＡＩでできない発想をアートから得るというビジネスマンの思考の流れがある。そういったこと有料で実施している美術館もある。ビジネスマンも取り込んでいくようなことを絡めていっても面白い。

**【参考事例】　（ ）は事業主体**

### 会員限定の講座やイベントに参加できる「ミュージアムパートナー」

**三重県総合博物館（三重県）**

- 個人や団体等の会員（有料）からなる三重県総合博物館ミュージアムパートナーを平成２６年に発足。三重県総合博物館ＭｉｅＭｕ（みえむ）の良き搬送者として館の活動に協力しつつ、三重の自然や歴史・文化を広く発信している。令和５年現在、会員数は１３２組２５５名。館側からミュージアムパートナーを対象とした講座やイベントが実施されるほか、ミュージアムパートナーが主催する展示・ワークショップなどイベントや学芸員との共同研究も行われている。年会費３万円以上を収めた団体賛助会員は情報誌に団体名を掲載することができる（個人の賛助会員は年会費１万円以上）。

## 活用の視点3. 施設や環境

川口西公園、リリアを含む文化芸術拠点全体としての回遊性、快適性、情報発信力を高めるための環境整備についての提案がされた。

### 公園を含めたエリアとしての心地よい雰囲気づくり

リリアや公園を含めてアートの雰囲気を創出していくことにより、エリアの魅力を高める。周辺地区を含めてアートの魅力にあふれた街区（アートディストリクト～アート街区）形成の可能性も提案された。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- 川口らしさを感じられる雰囲気であってほしい。良い雰囲気を作られたら、その雰囲気が波及していく。美術館の中の展示も、なんとなく居心地の良い雰囲気であるとよい。
- 特徴はアトリウム。リリアと西公園があると人は集まると思う。特に土日は親子連れが多いので、そういう人達が気軽に入り、美術を鑑賞できるとよい。加えて、リリアに来た人も気軽に美術館にきてくつろげる、楽しめる空間にできるとよい。

**【参考事例】　（ ）は事業主体**

#### ラ・フォル・ジェルネｔｏｋｙｏと三菱一号館美術館

**三菱一号館美術館（三菱地所株式会社）**

- 毎年ゴールデンウィーク期間中に東京国際フォーラムおよび周辺の丸の内エリアで行われる「ラ・フォル・ジェルネｔｏｋｙｏ」の会場の一つとして、丸の内ブリックスクエア一号館広場を利用。丸の内エリアの文化芸術拠点となっている。

#### 公道を活用した地域一体の賑わい空間づくり

**Marunouchi Street Park　丸の内ストリートパーク**

**（Marunouchi Street Park 実行委員会）**

- 道路空間等を活用し、人が歩いて楽しむまちを創出する取組を一体的に展開する「パーク・ストリート東京」と連携して、丸の内仲通りにおいてストリートピアノやキッチンカー、屋外型給電スポットなどを配した、都心の広場・公園的空間の在り方を検証する社会実験の場“Marunouchi Street Park（丸の内ストリートパーク）”を期間限定で実施。（２０２３年夏で５年目８度目の開催）

## 利用者を導くストーリー性ある環境演出

公園やリリアの利用者を美術館へと誘導する音楽や装飾等の環境演出や、入館者の期待感を醸成し文化芸術拠点としての発信力を高めるライトアップや駅からのアプローチ演出を展開する。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- 例えば公園をライトアップする等、緑を積極的に活かしていく方法もある。
- 広場で遊んでいるのは未就学の子が多い。遊具がある場所には、未就学の世代が移動するには疲れてしまう距離である。誘導路に音楽等流して、子どもたちが喜んでいるうちに美術館に誘導できるといった仕掛けも検討してはどうか。
- リリアと公園と美術館がつながる空間をどう作るかが大切。音が出たり、光があったりなど。
- 美術館やリリアに入るまでも楽しめるアプローチができるとよい。日本の伝統的な絵画を展示する際にも通路などで日本文化を表現する。

**【参考事例】　（ ）は事業主体**

### 隣接する公園とも連なる「オノマトペの屋上」

**富山県美術館（富山県）**

- 「あれあれ、うとうと、ぐるぐる、つるつる、ひそひそ、ぷりぷり、ふわふわ、ぽこぽこ」などのオノマトペ（擬音語と擬態語）にインスピレーションを得た遊具が配置された屋上庭園（入場無料）を設置。隣接する富岩運河環水公園やプロムナードとの連なりを創出している。

## 利用者に魅力的で快適な環境づくり

カフェ、ショップ、休憩スペース、遊具や遊びエリアなどを配置し、エリアの利用者や美術館の入館者にとって魅力的で快適な環境を提供する。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- お土産屋があるとよい。よく美術館の帰りにお土産をついつい買ってしまう。動線として帰りにショップがあると良い
- 美術館は休憩する（座る）ところがあまり多くない。昔は年配の方が多くいたが今は少ない。廊下に出たら休めるところがあると良い。

【参考事例】　（ ）は事業主体

### スーベニアフロムトーキョー

**国立新美術館ミュージアムショップ（国立新美術館・株式会社ウェルカム）**

- 漫画からアートブック、工芸品から若手デザイナーの作品まで、世界中から様々な人やモノが集まる東京ならではの視点で新しいデザインやアートに関する商品を展開。

### 美術館の特性に即したアートグッズのミュージアムショップ“NADiff”

**東京都写真美術館・東京都現代美術館ミュージアムショップ**

**（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社）**

- ミュージアムショップ NADiff（ナディッフ）では、各美術館の特性に即した書籍やアートグッズを展開している。

## 外部に向けた発信力の具現化

周囲からの視認性に優れたリリアの外壁を利用して情報発信を行う。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- 先日、多方面からリリアを見たときに「リリア」と文字が入っているだけで、壁が活用されていないと感じた。電光掲示板など、今何を開催しているか等掲示出来たら良いのではないか。

## アートの拠点にふさわしい空間とツールの整備

展示室やアトリウムで使用する運営備品等についても、文化芸術拠点にふさわしいアート感覚にあふれたデザインのものを使用する。

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- アトリウムで展示を行うと外から見える。開催している内容が見えると外からお客さんが入ってきやすいのではないかと思っている。
- 運営備品はどこにでもあるものでなく、アートを感じさせられるものだとよい。

## （4）活用施策の推進及び運営組織に求められる条件

文化芸術拠点及びその核となる美術館の活用における施策の推進及び運営組織・手法に求められる条件については次のような提案がなされた。

### 求められる条件1. 運営組織・手法のあり方

#### 市民を味方として、市民が主体的に参加・工夫して楽しむ美術館運営

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- 市民が主体であり、市民が工夫をして、市民が喜んでくれるものでなければならない。
- 市民をこれから味方につけていく。多くの人に目を向けてもらうことが重要。

#### 行政の枠を超えた美術館運営の必要性

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- インクルージョンやダイバーシティについて発言したが、福祉や子育て部門や教育委員会との絡み、公園等の部門等、役所的には多くの部門が絡んでくる。これから組立方がカギになる。

#### 美術館運営の知識、能力を持つ館長、外部人材、若手、企画力ある人材の活用

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- 館長などは知識を持っている人、運営能力のある方だと良い。行政出身の方ではなかなか難しいのではないか。
- 練馬区美術館で以前館長をされていた方は元広告マン。当時は企画が非常に面白かった。

#### 様々な課題や経済への波及効果について考えられる人材

**（検討作業委員意見・抜粋）**

- 多くの課題を抱え、経済効果も検討できるような人が必要。

【運営組織・手法のあり方に関する参考事例】　（ ）は事業主体

## 民間企業での経験豊富な館長の登用による話題性ある事業展開

**練馬区立美術館（練馬区）**

- 美術館の要となる作品の収集・保存管理、研究・展示活動に加え、学芸員や作家によるギャラリートークやロビーを利用したコンサート、ギャラリーや創作室の貸出など、様々な活動を行っている。館長には広告代理店に長年勤務した方や、ヴェネチア・ビエンナーレに携わる方々などがおられ、多様な知見が運営に生かされている。

## 求められる条件2. 開館までの事業推進のあり方

### ネーミングやキャラクター、イメージソング等の開発

- 美術館・リリア・公園、この３つを総称する名前があるのか。拠点の名前は重要ではないか。
- 近県の者でもリリアのことは知っている。せっかくネーミングするのであれば、キャラクターやイメージソングを設定してはどうか。

**【参考事例】　（ ）は事業主体**

**アートのホライズン「地平」を切り拓く美術館としての館名に改称**

**アーティゾン美術館／旧ブリヂストン美術館（公益財団法人石橋財団）**

- 「時代を切り拓くアートの地平を多くの方に感じ取っていただきたい」という意志を込めて、６５年以上にわたって親しまれてきた「ブリヂストン美術館」の名称を、「ART」（アート）と「HORIZON」（ホライゾン：地平）を組み合わせた「ARTIZON」（アーティゾン）に変更。「創造の体感」をコンセプトとする新たな方向性での活動に取組む。

### 開館の1年前からまち全体で盛り上げていく

- 開館の１年前あたりから街全体で美術館を盛り上げていく必要があると思う。
- 川口に素晴らしい美術館ができるということを数年前から市民や内外に訴えていくことが重要。そのためにはリリアの催し物と絡めて美術館を市民内外に広めていく必要があると思う。

### リリア、公民館、SNS などを活用した情報の発信

- リリアの線路に向かっている壁面は利用できると思う。リリアの壁面を広告材料に使い、幕などを活用して、いよいよできるんだというカウントダウンして伝えていく必要があると感じる。
- 川口の公民館はいい公民館が多い。会議室もある。情報発信としてはよいと思う。
- 森美術館には SNS 専門の部署がある。SNS に強い人を集めるのもよいと思う。

## (5)美術館の運営手法について

運営手法について A:直営、B:指定管理、C:直営＋委託の３つの手法を比較検討し、B:指定管理を基本的方向として検討継続することとなった。それぞれの運営手法の概要とメリット・デメリット、検討作業における意見を整理すると以下の表のとおりである。

| 手法 | A：直営 | B：指定管理 | C：直営＋委託 |
|---|---|---|---|
| 概要 | ● 市が美術館を運営する。 | ● 市が指定した民間事業者が美術館を運営する。 | ● 市と民間事業者が役割分担して美術館を運営する。<br>※例：学芸業務＝市職員、運営サービス・イベント・広報宣伝等＝民間事業者 |
| メリット | ● 運営の継続性・連続性を確保できる。 | ● 民間事業者のノウハウや人材が活用できる。 | ● 運営の継続性・連続性確保と民間ノウハウ、人材の活用が両立できる。 |
| デメリット | ● 美術館運営のノウハウや、集客にむけての企画力、人材に欠ける場合が多い。<br>● 公務員の勤務規定によるため、柔軟な運営への対応が行いにくい。 | ● 指定期間が短期（３～５年程度）のため、次のような課題がある。<br>● 運営の継続性や連続性が確保しにくい。<br>● 専門人材（学芸員等）の育成・定着が図りにくい。 | ● 学芸と運営サービス等で組織が異なり、部門間連携が図りにくい場合がある。<br>● 学芸業務を市職員で行う場合、美術館の学芸業務に関する知識や企画力を持った人材の確保が前提となる。 |
| 検討作業での意見 | ● 役所が上からあれやこれやというのではうまくいかない。<br>● 直営でも館長が変わると方針が変わり、継続性に欠けることがある。行政は配置換えがあり、２～３年で館長が変わる。 | ● 川口市の施設で指定管理者が変わることはほとんどない。継続性・連続性の確保は可能。<br>● 市の職員ほど担当者が変わることはない。<br>● 指定管理者には方向性をしっかりと認識してもらうことが重要。 | ● 検討作業で出た活用案は、市の職員ではできない（直営の場合も同様）。 |

## 3 検討結果一覧

### 1．文化芸術拠点活用方法検討の基本的視点

**1－1 立地のメリットを最大限に活用**

- 多くの市民が利用する川口駅、親子連れの利用が多い川口西公園、知名度の高い総合文化センター「リリア」に隣接するという立地条件を活かした活用方法を検討

**1－2 「川口らしさ」の発信と実感**

- 「川口らしい」イメージを発信し、市民や子どもたちが「川口らしさ」を実感できるとともに、外国人にとっては「日本文化」の魅力が実感できる拠点の実現

**1－3 施設間の効果的連携**

- 美術館とリリア（音楽ホール）で設備・備品の相互利用を図ることにより、美術館での音楽イベント開催など、美術と音楽が融合した川口市独自の文化芸術発信を実現

### 2．文化芸術拠点に期待される役割

**「美術と音楽が持つ力」を川口の未来に活かす、時代に先駆けた文化芸術拠点の実現**

川口駅や川口西公園を利用するさまざまな市民や親子連れが、気軽に川口市の文化芸術に触れることのできる場を提供するとともに、文化や言語、価値観を超えて人々をつなぐ「文化芸術ならではの力」を活かして、川口の未来に貢献する役割を担う文化芸術拠点へ

**2－1 多様な市民を包み込む インクルーシブなまちづくりに貢献**

- 全国で最も外国人比率の高い川口市の特性に対応し、言語や文化、価値観を超えて人々がともに楽しみ、一つになれる場を提供
- 川口市の多様性を活かした文化芸術の発信

**2－2 次の時代に活躍する人材を育成**

- 子どもたち（小学生）に対する文化芸術教育の推進
- 中高生が自分の夢にチャレンジできる場の提供
- 日本の伝統文化の素養を持つ、これからの時代に求められる国際人材育成への貢献
- 文化芸術を支える人材（キュレータなど）の育成

**2－3 川口の地域課題への対応**

- 美術や音楽を通じた子育て支援
- すべての人がともに楽しめる場づくりを通じて、インクルーシブなまちづくりをけん引
- 外国人の子どもたちの居場所づくり（ダイバーシティ）
- 商店街等に対する経済効果

### 3．具体的活用施策の方向性と展開案

**これまでの文化芸術施設の固定概念にとらわれない柔軟な発想と地域への拡がりをもった活用施策の検討**

**3－1．活用施策（プログラムや展示）の内容**

美術館では、川口ゆかりの作家の紹介を基本としつつ、美術と音楽を一体に捉えた、ここならではの取組を推進

① **美術と音楽を一体に捉えた文化芸術の発信**（三味線、俳句、アート感想文など）
② **幅広い市民が興味を持ち、文化芸術への入り口となるコンテンツ**（チームラボ、アニメ他）
③ **子どもから親世代へと広がっていく仕掛けづくり**
④ **エリア全体を「舞台」としたイベント等の展開**
⑤ **川口のまち、ひとと連携した川口独自のコンテンツ（商店街連携、名物人材～バーボンなど））**

**3－2．施設やプログラムの運営**

ベットタウンとしての川口の特性を反映するとともに、文化施設運営の固定概念にとらわれない運営を推進

① **川口を代表する文化芸術拠点にふさわしい運営サービス（ユニフォーム、案内サービス等）**
② **最新の技術（ICTなど）を活用した来館者対応**
③ **市民が日常的に利用しやすく、寄りたくなる運営（開館時間等）**
④ **美術館の雰囲気や施設を付加価値とした施設活用プログラム開発**（スポンサー企業利用、アートとイノベーション等）

**3－3．施設や環境**

川口西公園、リリアを含む文化芸術拠点全体としての回遊性、快適性、情報発信力を高めるための環境を整備

① **公園を含めたエリアとしての心地よい雰囲気づくり**（アートディストリクト～アート街区の形成等）
② **利用者を導くストーリー性ある環境演出**（音楽や装飾等の環境演出、ライトアップ、駅からのアプローチ演出など）
③ **利用者に魅力的で快適な環境づくり**（カフェ、ショップ、休憩スペース、遊具や遊びエリアなど）
④ **外部に向けた発信力の具現化**（リリア外壁利用による情報発信等）
⑤ **アートの拠点にふさわしい空間とツールの整備**

### 4．活用施策の推進及び運営組織に求められる条件

**4－1．運営組織・手法のあり方**

- 市民を味方として、市民が主体的に参加・工夫して楽しむ美術館運営
- 行政の枠を超えた美術館運営の必要性
- 美術館運営の知識、能力を持つ館長、外部人材、若手、企画力ある人材の活用
- 様々な課題や経済への波及効果について考えられる人材

**4－2．開館までの事業推進のあり方**

- ネーミングやキャラクター、イメージソング等の開発
- 開館の１年前からまち全体で盛り上げていく
- リリア、公民館、SNSなどを活用した情報の発信